洋１３－８７

「タイビスト！（POPULAIRE）」 ＊＊＊＊＊

（２０１３（平成２５）年７月２５日鑑賞＜ＧＡＧＡ試写室＞

監督・脚本：レジス・ロワンサル
ルイ・エシャール（保険会社の経営者）／ロマン・デュリス
ローズ・パンフィル（田舎から出てきた秘書志望の女性、２１歳）／デボラ・フランソワ
マリー・テイラー（ボブの妻、ルイのかつての恋人）／ベレニス・ベジョ
ボブ・テイラー（ルイの幼馴染）／ショーン・ペンソン
アニー・ルブランス・ラング（フランスのタイプ早打ち王）／メラニー・ベルニエ
ギルバート・シャピエ（ボブ・ルブランの友）
アンドレ・シャピエ／フェオドール・アドキン
マドレーヌ・エシャール（ルイの母親）／ミュウ＝ミュウ
ジョルジュ・エシャール／エディー・ミッチェル
ジャン・ポンフィル／フレデリック・ピエロ
ルシアン・エシャール／マリウス・コルッチ
ジャクリーン・エシャール／エミリン・バイヤー
レオナルド・エシャール／ヤニック・ランドン
エヴィリン・エシャール／ナスターシャ・ジラード
ヴァンプ／キクライン・ティレット
フランソワズ／シャン・コーエンディ
シャロスキー夫人／ミミ・クレイモン
寄宿学校の経営者／サーベンタイン・テーシエ
２０１２年・フランス映画・１１１分
配給／ギャガ

＜現代のオードリー・ヘプバーンの登場に拍手！＞

７月２４日に観たフランス映画「黒いスーツを着た男」（１２年）で若き主人公を演じたラファエル・ペルソナが「アランと、ドロンの両来！」と叫ぶ日本語字幕付きの予告編で始まるこのフランス映画「タイビスト！」で天然系のキュートな田舎娘ローズ・パンフィル役を演じたデボラ・フランソワはまさに現代のオードリー・ヘプバーン！

オードリー・ヘプバーンが「ローマの休日」（５３年）、「麗しのサブリナ」（５４年）、「尼下りの情事」（５７年）等で大活躍した、世界中の男性はもちろん、女性たちもうっとりさせたのは１９５０年代、日本はやっと戦後復興を終え、１９５６年（昭和３１年）に国連に加盟した、その部屋の中にあるＢＧＭ大衆歌謡、さらに その地震の中にある巨大な半風呂。それらを見たリポーターが、「日本がこんな国に戻れたのは当然」と思えたのだ、また、経ボけ芝居だけの服を着ていた当時の日本人男性たちに対して、オードリー・ヘプバーンのポーターレーの愛らしさや微女の魅をＢＧＭの可愛らしさはまさ？の世界だった。

そんな１９５０年代はアメリカ、イギリスと共に戦勝国となったフランスでも同じだったんです。本作にみる田舎娘ローズの髪型やドレス姿はまさにあの時代の映画で見たオードリー・ヘプバーンそっくり！本作の脚本を書き、監督したレジス・ロワンサルはもちろん最初の記にそれを狙ったわけだが、オードリーに きっと、ある映画で現代のオードリー・ヘプバーンに出会えるとは！

＜タイプからＰＣへ、パソコンへ！その打ち方は？＞

プレスシートによれば、「本作誕生のきっかけは、タイプライターの歴史を取り上げたドキュメンタリー作品だった」らしい。つまり、本作は「実際のタイプ早打ち大会の映像から生まれた、道義の“経緯”の物語」なのだ。生まれた時からパソコンとそのキーボードに親しみ、それしかしらない若者世代は、パソコンの前にワープロ（ワードプロセッサ）なるものがあったこと、さらにその前にはタイプライターなるものがあったことを知らないかも。英語やフランス語、ドイツ語等の西欧諸国では、アルファベットの鍵盤が少しいから英文タイプライターはそれほど大きくない、しかし、漢字、ひらがな、カタカナが無数にある日本語のタイプライターはけたたましい、１字１字を大層な軸幅で打ちつけ打ちつけ打ち込んでいくのだから大変。今ドキ、そんな和文タイプの打ち方を知っている人はほとんどいないはずだ、また、現在のパソコンの日本語入力はかな入力もあるが、ほとんどのユザーはローマ字入力を使っている。しかし、ワープロ時代には、ローマ字入力の他に親指シフトのキーボードを使ったかな入力という全く別の入力方法があった。私は当初、親指シフトのキーボードを使ったが、その後それは無くなってしまった。これはあくまでも、ピデオ時代のＶＨＳ方式とベータ方式の争いでベータ方式が敗れたのと同じようなものだ。

本作の主人公ローズは田舎娘ローズは、当時の女性のあこがれの仕事＝秘書になるため→で保険会社を営むルイ・エシャール（ロマン・デュリス）の会社へ面接を受けに きていたが、そこにはたくさんの競争相手が・・・、ローズの売りは「タイプの早打ち」だというので、ルイが早速それを試してみると、ローズは左右の人差し指１本でタイプを打ち始めたからビックリ。それなら「１本指打法」ではとてもダメ！ルイはそう思ったが、凄まじい音を立てながら１本指で本一ボードをたたくスピードはそもそうまこいもの、ウンウン、ひょっとしてく・・・。

＜フランス人も、何でも結けの対象に？＞

去る７月２２日、イギリスではウィリアム王子と妻のキャサリンの間に３番目の皇位継承者となる男子が誕生し、「ジョージ・アレクサンダー・ルイ」と名付けられた。しかし、何事も結けの対象とするイギリスでは、その誕生を前に公刊に生まれるか、②ペニーは男かなか、はもちろん沢山から出てくる時キャサリンは右足から踏み出すか左足から踏み出すか、まで賭けの対象にされたらしい。ちなみに、２０１２年のアメールス文学賞の受賞者について、世界最大規模のブックメーカーであるイギリス・ラドブロークスの文学賞受賞者を予想するオッスは、村上春樹が１位で中国の莫言は４位だったが、結果はその予想に反して莫言が受賞した。私はこんなに陽キ男が好きなのはイギリスだけかと思っていたが、本作を見ると、どうもフランスも同じらしい。

１本指なりの生徒とスピードキーボードをたたくローズの姿を見て、これはタイプの早打ち大会には通させれば優勝できるのでは？そう考えたルイは、それを賭けの対象とすることを提案のオッ・テイラー（ショーン・ペンソン）に持ちかけると、いとも簡単にそれが成立したから私はビックリ。もともとスポーツ大会には通常ふ賭が１位で中国の莫言は４位だったが、結果はその予想に反して莫言が受賞した。私はこんなに陽キ男好きなのはイギリスだけかと思っていたが、本作を見ると、どうもフランスも同じらしい。

１本指なりの生徒とスピードキーボードをたたくローズの姿を見て、これはタイプの早打ち大会には通させれば優勝できるのでは？そう考えたルイは、それを賭けの対象とすることを提案のオッ・テイラー（ショーン・ペンソン）に持ちかけると、いとも簡単にそれが成立したから私はビックリ。もともとスポーツ大会には通常ふ賭が１位で中国の莫言は４位だったが、結果はその予想に反して莫言が受賞した。私はこんなに陽キ男好きなのはイギリスだけかと思っていたが、本作を見ると、どうもフランスも同じらしい。

＜なるほど、間違はこんなりの方で・・・＞

本作のためにレジス・ロワンサル監督が情報収集をした結果、２００４年当時、タイプを教える学校は既に姿を消していたが、結り張く情報収集した結果、早打ち大会の映像で関連文書が見つかり、その中にすり鉢状の競輪場のような会場で、何千人という観衆を集めて開催された、アメリカ方会の写真があったらしい。したがって、本作で最初に見る、フランス大会に向った最初の関門である地方大会のタイプ早打ち大会の様子はその後の展開にもものだが、１９５０年代のフランスでこんな風景が営まれていたことは興味深い。

１選隣の試用期間内で全く結働の才能を見せることができなかったローズは、当然のようにクビを宣告された。しかし、そこでルイが出した「但し・・・」の条件が、タイプ早打ち大会に出場し、優勝することだ。ここで負け犬になって田舎に戻れば父親が決めた結婚をしなければならないローズは、生来の負け嫌いの性格もあってこれを了解したが、その日から「ロッキー」シリーズにおけるシルヴェスター・スタローンの特訓と同じようなローズへの猛特訓が始まることに、その出発点は１本指打法から１０本指打法への転換だが、さてローズはいかなる努力で それを可能に？勝利に向かって立ったのか、ルイのかつての恋人で、今は武器の商人っていうマリー・テイラー（ベレニス・ベジョ）によるローズへのピアノのレッスンだ、しかし、このように更なる人間関係が絡んでくると、ルイとローズの恋の行方にも何らかの影響が・・・？

もちろんタイプ早打ち大会は現在の技術の勝負だが、上級レベルになると体力も必要だし、難しい文章を読む能力も必要。日本の国技・相撲と同じように、心・技・体のすべてで最高のレベルに達する必要があるわけだ。初挑戦の地方会はあっさり敗退したローズの、その後の激しいトレーニングに耐え抜いたローズは、翌年の地方会を見事１位通過、次に待ち受けるのはフランス大会だが、そこには３度目の挑戦を誓う女王が君臨していた。ちなみ、フランスの全国大会では１分間３６０字が最高スピードだそうだが、それって具体的にどんな風に計算するの？それは本作を観ているだけでは十分わからないから、興味ある人はさらなる情報収集を・・・。

＜名を成した後の、コーチと選手の関係は？＞

コーチと選手の関係には、スポーツ界をみても芸術の世界をみても きまぎまなパターンがある。それが１対１の場合、また、男と女の場合、コーチと選手が恋におちることもあるし、逆にケンカ別れすることもある。フランス大会では、決勝戦まで勝ち残ったローズ、王座を目指すフランス女王と直接対決したが、二人の打鍵は全く同じ。そのため５分間の延長戦になったが、そこでローズがムイに吐いたセリフが「ここまでくれば満足」というものだったから、ルイはそれに激怒！この時点におけるイメーズのローズの関係は、コーチと選手の関係を超えたような超えてないような微妙な距離感だった（？）から、ローズはそれムイの反応に驚くとともに、その顔色にメラメラと炎が立ちのぼっていくことに、なるほど、こうなりゃ、ルイの思うつぼ・・・？

もっともフランス大会で見事優勝すると、それまでの女王についていた大手タイプ会社でるるシャピー社は、手の平を返したようにローズをイメージキャラクターとすることで契約、そのため、ローズはテレビや雑誌の取材、各種イベントへの参加、そしてＴＶＣＭ出演と大忙し。ローズはオードリー・ヘプバーンばりのファッションでパーフェイスによって先生をカラフルに変身していくから、そこで最終にもルイはローズに対して「俺はもう君には必要ない」と言たと言い放ったが、それは一体なぜ？それは結婚の中、ローズはシャピー社の新型タイプライターを操りながら最後のアメリカ女王が待つタイプ早打ち世界大会にフランス代表として出場する準備を整えていたが、果たしてルイのような鬼コーチ不在のままでローズは大天才ローズはホントに、その実力を発揮できるの？

＜ローズのファッションとその変容ぶりに注目！＞

本作では、男のもてぶり、ローズが着用する１９５０年代のさまざまなファッションが楽しい。日本女性の着物姿も悪くはないが、面接時に一本指で必死にタイプを打っているローズの姿を、ルイが後ろに立って見守っている中、ローズの陽から ドレスのひもがズレてくると、思わず・・・。一本指打法から十本指打法へ、また、ピアノレッスンを取り入れることによって優勝は間違えないと思ったら、そんな自のにむける努力によって、地方大会から全国大会へ、そして世界大会への出場を次々と決めていく中、当初よりどこかなぐ今ほった田舎娘だったローズが、次第にドレスがズレ落ちるほどの色気を出すように変身していくから、不思議なものだ。これは、あたかも「マイ・フェア・レディ」のヒロイン、イライザの変身と同じようなものだ。ちなみ、ローズのファッションでは、ローズいろ名前に合わせたようなピンク（ローズ？）色のドレスだ。

もっとも、１ラウンド５分間、合計３ラウンドで争う世界大会の決勝戦は、互いに対抗意識を丸出しにし、目と目でにらみ合う中でタイプライターと格闘する「肉弾戦」だから、ファッションにまで目を向ける余裕はないから、・・・１回戦はローズが勝利したものの、２回戦はアメリカ女王の巻き返しの前に敗退、そこで最後の３回戦を迎えた、何を思ったかローズはそこでタイプの前を去り退場していったから、ここやムッとして話合を裏情しての通過？誰もがそう思ったところから、クライマックスに向けて思わぬドラマが展開していくのだ、さあ、お立会い。

＜アメリカ人はビジネスを！フランス人は恋を！＞

ローズにとってこの最後の５分間はタイプ早打ち人生の集大成のようなものだから、そこで敗退するローズは、ルイの前に立ちはだかる。ルイは思いてローズはタイプを置い始めを結ぶものに切り替えるとともに、シャピー社とかいうスポンサーがつき、その最新技術を使って世界会に挑んでいるク、そんなのが まほは許さるのう？また、そんな陽キ男のローズをなぐ嘆ん精神で使って、ホントに大丈夫？そんなんなのドラマティックな展開は、本作を最高のエンタメ作品に仕上げている、そして、本作ラストの最高のクライマックスは、ローズを見放したように思えたこの日まで一定の距離を保ち続けていたルイの登場から始まっていく。

ここでのルイの投入受与は、「今までは君が僕を必要としていたが、今は僕が君を必要としているんだ」というもの。期待していた通りの言葉をルイの口からそこまでハッキリ言白してくれれば、ローズが勇気百倍になるのは当然！そして、見事ローズがアメリカ女王を打ち破ったことに、ローズのスポンサーであるシャピー社はスキをとらえてビジネスをグットすることに。そこでつぶやかれる言白いセリフが「アメリカ人はビジネスを！フランス人は恋を！」というものだ。映画のラストシーンでは、恋敵をくぐる広げた舞台の上で観客たち注視の中でキスを交わすローズとローズの姿だが、きっとルイとローズは観客の姿を一切目に入ってなかったはずだ。いかにもフランス映画らしい、恋の中のあいたセリフに拍手！そして、ここまでこ人生即で勝負に執念をもやし、そのス次恋をゲットしたこの人の努力に拍手！

２０１３（平成２５）年７月２９日記